

ホクレン営農支援情報

(2020年1月号)

● 訓子府で女性農業者を対象とした農作業安全研修会を実施 《営農支援推進課》

営農支援センターでは、12月17日に訓子府実証農場で「女性向け農作業安全研修会」を実施しました。営農支援センターではこれまでもさまざまな研修会を実施してきましたが、「女性農業者」を対象としたのは今回が初。オホーツク管内から25名が参加しました。

研修会は、女性が参加しやすいように10～15時に実施。「農作業安全」「GAPでみる農場管理」「自動操舵トラクターとガイダンスの仕組み」について、午前は座学、午後は施設見学やトラクター操作の実技を行いました。また、研修会の最後に設けた「意見交換ティータイム」では、お茶とお菓子を食べながら4～5名の班ごとに意見交換を実施。女性同士の悩みなどについてお互いにアドバイスしました。



午前は座学で基礎知識を習得



自動操舵トラクターの試乗



機械を見ながら危険な箇所や作業内容を確認



お茶とお菓子を食べながら意見交換

●札幌で担い手向け研修会「トマト」「小麦・大豆」を実施 《営農支援推進課》

営農支援センターでは、就農年数の浅い担い手の人材育成を目的に、毎年「担い手向け研修会」を実施しています。札幌市内のホクレン研修センターで、11月19～20日に「トマト」、12月10～11日に「小麦・大豆」をテーマとした研修会を開催。それぞれの31名、24名の生産者やJA職員などが参加しました。

両研修会では、テーマとなった作物に関する基本的な栽培技術などについて学んだほか、受講者同士の意見交換や交流会を通じて、地域を越えたネットワークづくりが行われました。札幌会場の次回の担い手向け研修会は、2月19～20日に「水稻」をテーマとして実施予定です。



「トマト」の研修会での意見交換の様子



「小麦・大豆」の研修会の受講者

●アグリポートの読者モニターと意見交換 《営農支援推進課》

営農支援センターが発行する営農支援情報誌「アグリポート」。その読者モニターである「アグリポーター」は編集部にとっての心強いパートナーです。編集部では創刊4年目で初めてとなる「アグリポーター座談会」を開催し、誌面改善のための意見交換を行いました。

座談会では、編集部からアグリポートの各ページの狙いや読者評価をお伝えし、アグリポーターからはアグリポートの良い点や改善点を伺いました。「表紙モデルの着こなしは、

本当の農作業中とはちょっと違う」など、生産者だからこそ気付く意見も。座談会の様子は、アグリポート2月号でお伝えする予定です。ぜひご覧ください。



意見交換の様子



編集部とアグリポーターで写真撮影のミニ講座

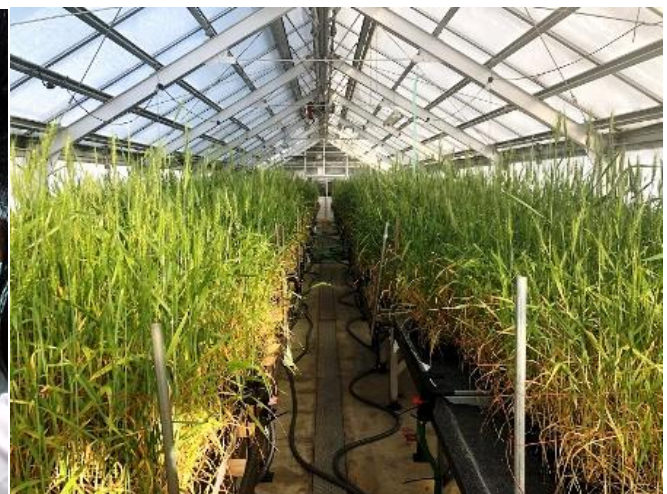
● 「春よ恋」に続く春播き小麦品種の開発 《長沼研究農場 畑作物開発課》

ホクレン長沼研究農場では、圃場だけでなく、温室も利用して春播き小麦の品種開発を行っています。冬期間には、^{やく}薬培養と呼ばれるバイオテクノロジー技術を使って作出した小麦を温室にて栽培管理しています。

現在、春播き小麦（パン用）の主力品種となっている「春よ恋」は、当農場で^{やく}薬培養により育成・開発した品種です。「春よ恋」に続く優良な品種を効率的に開発すべく、日々研究に取り組んでいます。



小麦の花粉が詰まっている「^{やく}薬」を培養



^{やく}薬培養で作出した小麦を温室で栽培

●空知管内 JA 営農担当者研修会を開催 《岩見沢支所 営農支援室》

岩見沢支所では、昨年度より空知管内 JA 営農担当者に向けた情報発信と多様化する生産者ニーズの共有化を目的として「JA 営農担当者研修会」実施しています。7月9日の第1回目につき、今年度第2回目となる研修会を11月11日に開催し、7つのJAから13名が参加しました。

今回は、①鳥獣被害対策・・・狩猟者減少社会での対策（空知総合振興局および認定鳥獣害捕獲事業者の株式会社高橋組）②JA 営農サポート事業および畑作物 GAP の取り組みについて（北海道中央会）を議題とし、情報提供を実施。研修会後のアンケートにおいても高い評価をいただきました。



質問に対応する株式会社高橋組の牧課長（写真左端）

説明を行う北海道中央会桑原主幹（写真左）

●スマート農業冬季研修会【胆振西部地区】を開催 《苫小牧支所 営農支援室》

苫小牧支所では、12月5日にJA伊達市・JAとうや湖合同のスマート農業研修会を開催し、両JAの生産者・職員、行政関係者ら68名が参加しました。

研修会では、ホクレンRTKシステムの仕組みや測位精度の現地調査結果、最新のドローンの性能などの講義を行いました。また、実演会では、自動航行型ドローンの実演飛行や自動操舵補助装置搭載トラクターの試乗を行いました。参加した生産者からは様々な質問も出

て関心の高さが伺えました。



● 担い手向け研修会（水稲）を札幌で開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に「水稲」をテーマとした研修会を下記のとおりで開催します。水稲に関する栽培の基本や販売情勢など、幅広く学ぶことができます。また、同じような立場の受講者同士のネットワークづくりの場としても有効です。ぜひご参加ください。



昨年の研修会の様子

【開催日時】 令和2年2月19日（水）10:00～20日（木）15:50

※1泊2日の合宿研修

【受講場所】 ホクレン研修センター（札幌市東区北22条東2丁目）

【受講対象】 水稲を生産する農家後継者（概ね就農5年以内のUターン、親元、新規就農者など）

【研修内容】 水稲栽培の基礎、北海道米の販売情勢と今後の戦略、生産現場における良質米生産と経営改善の取り組み事例、経営管理の基礎、水田の病害虫・雑草防除、ういず One の紹介、水田土壌の仕組み、水稲栽培の低コスト・省力化技術、米の食味の違い（食べ比べ）、人材確保・活躍と省力化について など

【参加料】 5,000円（税抜、施設使用料・交流会費用）

【申込方法】 JAを通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ

●イラストで分かる！「省力化ガイドブック」を発売 《営農支援推進課》

ホクレン営農支援センターでは、省力化に結び付く資料や技術をまとめたアグリポート別冊の「省力化ガイドブック」を発売します。

JAで購入可能なものや、すぐに導入しやすい技術を中心に紹介しており、誌面上の2次元コードからアニメーションを使った解説もしています。

1月下旬に発売し、全道のJAを通じて生産者の皆さんにお届け予定です。営農の省力化に向け、ぜひご活用ください。



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp